参考資料 5

林文子・横浜市長のコメント（9/27 文化審議会総会）

【「文化芸術立国」実現に向けた国と地方（自治体）の役割分担】

◎ 地方創生の流れの中で、真の「文化芸術立国」を目指すためには、国と地方（自治体）が役割分担しながら取り組むことが肝要です。

◎ **国は**、我が国全体の“**文化度向上に向けた土壌づくり**”に取り組み、国民が文化芸術に慣れ親しみ、社会全体がアーティストを育成・支援する環境づくりに努めるべきです。

◎ **地方（自治体）は**、市民の**文化芸術活動の場を提供**するほか、**地域の特色を生かした文化芸術イベントの開催**により賑わいづくりを進めるなど**地域活性化**に取り組みます。

◎ 特に、**政令指定都市は**、「文化芸術の創造性を生かしたまちづくり」や「発信力のある文化芸術イベントの開催」などにより、**国や他都市をけん引**し、我が国の文化度を高める取組が求められます。

【国の文化予算の拡充】

◎ 国際的に影響力のある国を代表する都市、例えばニューヨーク・モスクワ・パリには、音楽・演劇・スポーツなど、必ずと言っていいほど**「本物」**があります。

◎ これら世界的な文化芸術都市は、実に戦略的に形作られ、揺るぎない存在感と圧倒的な発信力があり、**「本物」**に触れ感動する醍醐味と魅力を求めて、世界中から人々が訪れています。

◎ トップレベルのアーティストが最高のパフォーマンスを発揮でき、観客がそれを堪能できる**「本物」**の施設・設備も必要です。

◎ 2015 年度の我が国の文化予算（1,038 億円）は**国家予算のわずか 0.11%であり、**諸外国（フランス・イギリス・ドイツ・中国・韓国）と比べても圧倒的に低い水準です。

◎ 我が国が国際社会の中で「文化芸術立国」としてのプレゼンスを発揮し、成長につなげていくため、**文化予算の増額**及び国家予算に占める**文化庁予算の割合を増やす必要**があります。

◎ 2019 年・2020 年はスポーツのみならず、**我が国の「文化」**を国際的にアピールする絶好の機会です。**「文化」**こそが国の真の豊かさを表すものです。

◎ これからの日本、将来の我が国への投資と言う意味も含め、**国の文化予算の拡充**が必要です。

【将来を担う子どもたちの育成】

◎ 将来を担う子どもたちが、間近に「本物」の文化芸術に触れ体験することは、豊かな感性を育むことにつながります。

◎ また、我が国が真の「文化芸術立国」を実現するためには、子どもの頃に**「本物」**の文化芸術に触れ、鑑賞・体験する習慣を身につける必要があります。

◎ 人口減少・少子高齢化が進展する我が国の将来を見据え、国際社会の中で多様な文化力のある国を目指すため、引き続き子どもたちが**「本物」**に触れることのできる、文化芸術体験活動の充実が必要です。

【文化芸術を創造し支える人材の育成・支援】

◎ 「本物」の文化芸術は、人々に感動と心の豊かさをもたらすものです。

◎ **「本物」**や**プロのアーティストがもっとリスペクト（尊敬）される社会**を実現すべきです。

◎ 日本は、欧米諸国と比べ寄附文化が育っていないため、プロのアーティストが活動しづらい状況です。国民が日常的に文化芸術に触れる土壌・風土をつくる必要があるとともに、**トップレベルのアーティストを国が支えていく仕組み**が必要です。